

要 請 書

「豪雪等に対する除排雪経費への支援要請」

平成25年1月

北海道市長会

豪雪等に対する除排雪経費への支援要請

北海道では、昨年末から長期にわたる冬型の強い気圧配置の影響で、日本海側を中心に大雪に見舞われ、低温が続いたこともあり、空知、石狩、上川、留萌、宗谷、後志管内と広範囲に渡り、平年を大きく上回る積雪となっております。

昨年度に続く異常とも言えるこの大雪は、バス・JRなどの運休や国道・幹線道路の渋滞による交通障害を引き起こしたほか、停電被害や除雪作業中の事故等による死傷者の発生など、市民生活に深刻な影響を与えております。

このような状況の中、除排雪に要する経費が大幅に増嵩し、早くも多額の補正予算の編成を余儀なくされており、今後、融雪期までの降雪を考えると、財源確保に苦慮しているところであります。

つきましては、これらの実情をご賢察のうえ、下記の財政支援について強く要望いたします。

記

特に、空知、石狩、上川、留萌、宗谷、後志管内の都市について、次の事項を十分反映していただきたい。

- 1 特別交付税の配分にあたっては、今回の特殊事情を適確に反映させること。
- 2 全国的な豪雪災害であることを踏まえ、「幹線市町村道除雪費補助の臨時特例措置」を適用すること。

■北海道内の都市における主な被害状況等

◎ バス・JRなどの運休や国道・幹線道路の渋滞による交通のマヒ

【留萌市：1/3～1/8まで市内循環バス全線運休・1/3～1/17まで留萌～増毛間のJR運休など】

◎ 暴風雪に伴う配電線損傷による停電被害【石狩市：2650戸】

◎ 雪による道内の死亡者17名、重軽傷者225名（1月21日現在）

【岩見沢市において死者3名、小樽市において死者2名、旭川市・北見市・網走市・芦別市・士別市・恵庭市において死者各1名】

■主な都市の降雪量・積雪深などの状況

（平成25年1月15日現在）

【北海道市長会調べ】

（単位：センチメートル、千円）

		累計降雪量		積雪深		最大積雪深		平成24年度除雪関係予算	
		平成24年度	平年	平成24年度	平年			当初予算	補正予算 (予定を含む)
空知	岩見沢市	525	375	139	73	1月11日	150	791,100	880,000
	美唄市	657	379	85	53	1月11日	92	428,669	230,000
	芦別市	358	329	89	63	1月15日	89	167,800	51,800
	赤平市	530	602	62	58	1月3日	70	149,396	(検討中)
	三笠市	710	506	148	104	1月14日	160	174,998	200,000
	深川市	493	494	107	71	1月4日	130	743,712	122,000
石狩	札幌市	246	245	58	51	12月26日	70	14,905,248	(検討中)
	江別市	284	227	72	65	1月10日	81	721,613	230,000
	千歳市	177	131	23	39	12月16日	29	382,000	(検討中)
	北広島市	248	171	52	55	12月26日	76	285,142	70,000
	石狩市 (旧石狩市)	345	261	95	58	1月13日	96	632,769	150,000
石狩市 (厚田区)	342	336	100	64	1月11日	106			
上川	旭川市	311	320	70	56	12月27日	83	1,975,736	(検討中)
	士別市	502	342	116	78	1月3日	126	370,734	(検討中)
	名寄市	427	377	103	79	12月10日	132	397,396	85,000
	富良野市	294	311	53	46	1月13日	58	288,435	0
留萌	留萌市	399	316	96	46	1月10日	112	273,795	55,882
宗谷	稚内市	332	282	73	40	1月4日	108	668,090	189,120
後志	小樽市	301	287	79	66	12月26日	85	950,000	(検討中)
胆振	苫小牧市	85	38	13	8	12月18日	28	140,000	290,000
	登別市	183	117	40	29	1月6日	44	55,000	(検討中)
渡島	函館市	182	142	37	21	1月3日	45	340,000	304,349
オホーツク	網走市	188	130	58	26	12月26日	70	230,287	236,304
	紋別市	176	193	50	29	1月15日	29	307,647	54,000
十勝	帯広市	142	85	48	33	1月2日	55	424,000	250,000
釧路	釧路市	73	48	8	12	12月18日	19	362,081	150,000

※赤色の市は最大積雪深100cm以上、青色の市は最大積雪深80cm以上100cm未満

※旭川市、江別市、士別市、三笠市の平年値は過去5年間の平均

※函館市の平年値は過去30年間の平均

【石狩管内の都市】札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市
 【空知管内の都市】夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市
 【上川管内の都市】旭川市、士別市、名寄市
 【留萌管内の都市】留萌市
 【宗谷管内の都市】稚内市
 【後志管内の都市】小樽市

【主な都市の降雪状況等について】



【留萌市】



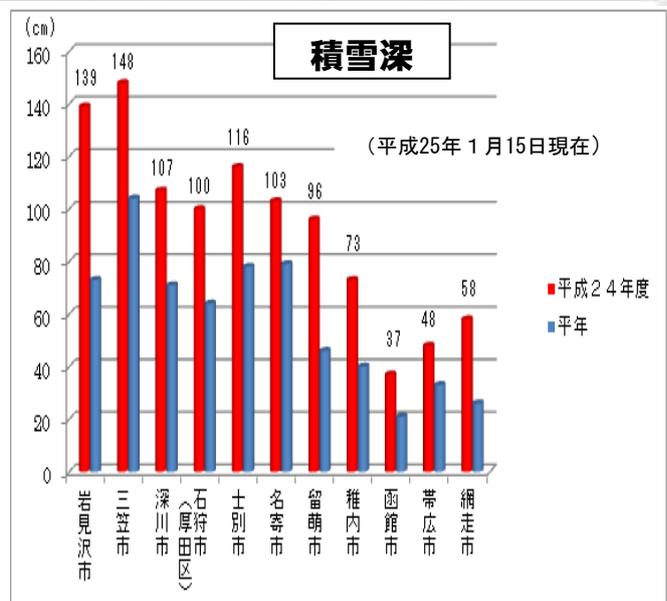
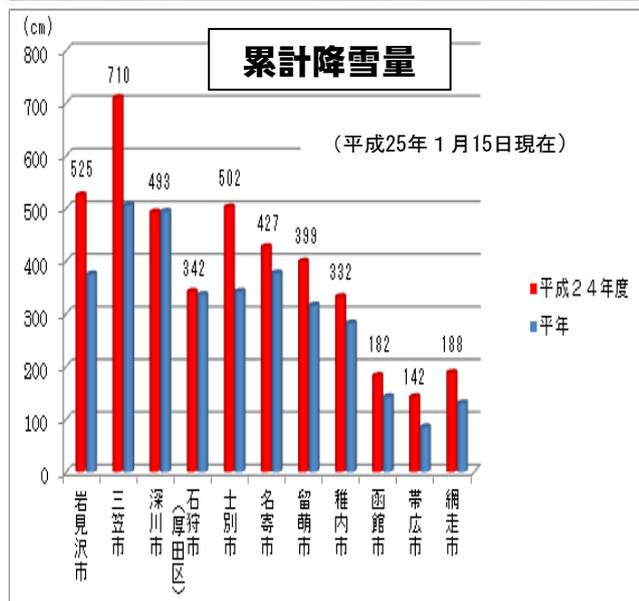
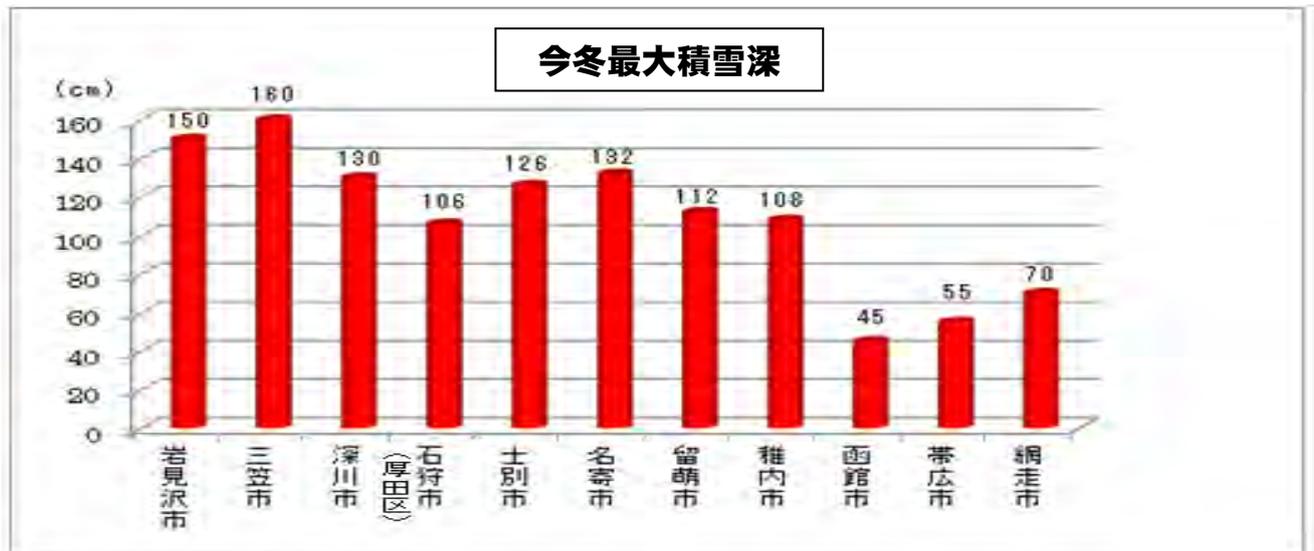
【稚内市】



【岩見沢市】



【深川市】



バス運休「病院行けない」

留萌 交通マヒ深刻

年明けから記録的な大雪に見舞われている留萌市では、7日になっても除排雪が追いつかず、交通マヒによる市民生活への影響が深刻化している。JR留萌線（深川―増毛）は5日連続で終日運休となり、市内のバス路線は7日朝にいったん運行を再開したが、午前中で再び運休状態に陥った。

（平田舞）

記録的大雪

留萌市では3日に暴風雪があり、旭川地方気象台によると、今冬の累積降雪量は6日間で321センチ、積雪は83センチ（7日午後8時現在）と、平年の2・2倍となっている。市街地に入ると、高いところで路肩に大人の背より

高い雪山ができていた。排雪用ダンプカーは頻繁に行き違っているものの、ダンプよりも高くそびえたままの雪山もある。雪山の脇に作られた歩道は人がすれ違おうのがやっとの幅しかない、車で細い道から幹線道路に出ようとすると、見通

しが利かないために、いつ事故が起きてもおかしくない。

市中心部の除雪は業者8社に委託して3日から始まっているが、排雪が追いついていない。市役所では都市整備課の担当職員が休み返上で除雪業務や市民からの問い合わせに応じている。苦情はすでに300件を超えた。ダンプカーの手配は、国道や道道の排雪も並行して行われているため、市で確保できるのは10〜15台という。担当職員は「過去10年で最も多い雪だ。来週からは小中学校も始ま

るので、それまでに学校周辺は正常化させたい」とした。

3〜6日に市内の全路線を終日運休させていた沿岸バスは、7日朝に運転を再



ホームの除雪をする作業員（7日、留萌駅で）＝平田舞撮影

大雪除雪費パンク

大雪の影響で、道内各地で除雪費が足りなくなる自治体が続出している。急いで補正予算を組んだり、住民からの苦情や問い合わせに応じたり、各自治体は対策に追われている。



中心部の幹線道路も排雪が進まず、雪山が勢いよく歩道と車道を覆う。21日、旭川市7冬通14丁目、渡辺康人撮影

各地で補正予算案

記録的な大雪で、路線バスが14日間も全面運休するなど道路網がマヒした留萌市。都市整備課の担当者は「3日の大雪以降、雪の運搬経路すら確保できず、除雪も排雪も進めるに遅められなかった」と嘆く。

作業に使う重機はフル稼働しており、2億7300万円の除雪予算は底をつきつつある。2月の臨時市議会で、約5千万円の補正予算案の提出を見込んでいるという。

岩見沢市では、記録的な大雪だった昨年に近いペースで雪が降っている。除排雪費として8億8千万円を追加する方針を決め、24日に臨時市議会を開いて補正

予算案を提出する。昨年度は累計11月を越す降雪があり、除排雪費は20億4千万円かかった。今年度も10・5月まで対応できるような当初予算と合わせて16億7千万円を用意する。

作業員は休みなし

稚内市も5億2千万円の当初予算に対し、約1億円の補正予算案を3月議会に提出することを検討中だ。3、4日に49年ぶりとされる81歳の降雪を記録。記録的な寒さで雪も溶けず、2月分ぐらいたまの除排雪費を使ってしまった。土木課の担当者は「フル稼働しても生活道路の排雪が追いつかず、作業員は休みなしで、健康面も心配だ」という。

旭川市の今年度の除雪予算は20億3千万円だが、「今後雪が降らないなど特別なことが起こらない限り」（土木事業所担当者）、不足が予想されるという。昨年末にいったん排雪を終わらせたが、3日のドカ雪で振り出しに戻った。市民からの「いつ除排雪するのか」という苦情や問い合わせは、3、4の両日だけで約2千件。担当者は「延長2100分を除排雪せねばならず、手いっぱい」。15日までに主に幹線道路と通学路で排雪を終え、生活

2日で苦情2千件

釧路市は昨年末までの豪雪で、市道、歩道を計6回一斉除雪するなどし、約3億5千万円の除排雪費をほぼ全額使い切った。追加として約1億5千万円の補正予算を専決処分した。

札幌市では、例年1月中旬からの運搬排雪を前倒しして11年ぶりに12月中旬から始めた。除雪予算は約149億円で、同市雪対策室によると「50%強を使っていて、例年同期よりやや高

い」という。

予算底つく自治体続々

【平成25年1月22日 朝日新聞朝刊】

今冬も雪に20億円超 岩見沢市 見通し

今冬の雪対策費について、岩見沢市が42年ぶりの豪雪に見舞われた昨季同様、20億円を超えると試算していることが12日、わかった。同市は今月中にも臨時市議会で除排雪費の上乗せを行う方針だが、市幹部は「毎年20億円からの予算がかかる」と市財政はパンクしてしまう」と2年連続の大雪に頭を悩ませており、同市は国や道に支援を要請することも検討している。

札幌管区气象台によると、11日までの同市の累積降雪量は5.5センチ、平年の14.1%。前年同期期よりやや少なめだが、例年1〜3月にはさらに、5月前後の降雪が予想される。通常は6〜8日で収まる最終的な累積降雪量について、市は今年、10.5センチ達する可能性があると判断した。

昨季の除排雪費は過去最高の約20億円に膨らみ、公共施設の復旧費なども合わせ計約25億円の対策費用がかかった。今冬もこれまでの降雪や積雪の多さから、除排雪費を当初予算の倍となる約16億円と想定。被害が昨季同様に発生した場合、計約21億円の雪対策費が必要になるとの計算だ。

道内は12日、冬型の気圧配置が緩んで全道で曇りの空が広がり、連日続いていた厳しい寒さが各地で少し緩んだ。11日まで4日間連続で氷点下30度以下の最低気温を記録した枝幸町歌登の最低気温も同13.7度となった。

それでも、上空の寒気の影響で、陸別町では同27.7度を記録。札幌市も最高気温が同2.4度までしか

あがりませんでした。

【平成25年1月13日 読売新聞朝刊】

大雪 仕事始め直撃

道内は4日、前日からの冬の気圧配置の影響で、宗谷北部や石狩北部、南空知で強い風雪が続いた。JRは留萌線が全区間で終日運休となるなど、237本が運休し、仕事始めの日の通勤客やUターンの帰省客ら約4万3700人に影響が出た。

JR 237本運休 今夜再び荒天

札幌管区気象台によ、狩管内新篠津村41時な間が4日夕に復旧したと、5日午前0時まを観測。除雪作業が追いつかぬと、24時間降雪量は、JR北海道によるほか、宗谷線の幌延ー稚内間、室蘭線の岩見沢ー追分間の運行を止めるほか、函館線2本、岩見沢市35時、石狩川間、岩見沢ー江別、日見合わせた。室蘭線1本、宗谷線9



本の部分運休や運休を決めた。

道内 中旬まで低温傾向

札幌管区気象台は4日、1月5日から2月4日までの1カ月予報を発表した。道内の気温は1月中旬ごろまで、冬の気圧配置が、強まる影響で平年を下回ると予想している。特に5、11日は寒気の影響を受ける。最低気温は釧路、根室、十勝管内で約1〜6度、宗谷管内で約3〜5度、オホーツク、渡島、檜山管内で約2〜5度ほど平年を下回る。胆振、日高管内も約2〜4度、石狩、空知、後志、上川、留萌管内も約1〜3度ほど平年より低くなる見込み。最も、気温が平年を警戒を呼び掛けている。1カ月予報では、日平均気温は平年に比べ、異常天候早期警戒情報（本海側は平年に比べ、曇りや雪の日が多くなる見込み。オホーツク海からの約1週間について、

雪や風の影響で、新を結ぶ路線がほぼ運休すると、5日は道内上空側は平年と同様、曇りや雪の日が多く、太平洋側は平年と同様、晴れの日が多くなる見通し。また、22観測地点の平均気温は平年を1.5度下回った。また、気象庁は4日、昨年12月に道内16地点で、12月としては観測史上最大の積雪（過去最大1地点を含む）を記録したと発表した。上川管内下川町が平年比約5倍の14.7時（観測日10日）、名寄市が同約4倍の13.2時（同10日）、紋別市が同約5倍の66時（同19日）など。札幌管区気象台が4

【平成25年1月5日 北海道新聞朝刊】